

Title	聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告書（2008年度）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-2 : 21-30
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2303
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院大学大学院・総合研究所 教員活動報告書（2008年度）

たか はし よし ぶみ
高橋義文

現職位：教授

本学への就任：2007年4月1日

最終学歴：

1970年5月 Loma Linda University College of Arts and Sciences 卒業

1972年8月 Andrews University School of Graduate School 修士課程修了

1977年3月 東京神学大学大学院神学研究科組織神学専攻修士課程修了

1983年8月 東京神学大学大学院神学研究科組織神学専攻博士課程満期退学

取得学位：

1982年8月 Master of Arts in Religion (Andrews University)

1977年3月 神学修士（東京神学大学）

1991年5月 神学博士（東京神学大学）

所属学会：日本基督教学会（1973年～）、日本宗教学会（1974年～）、日本組織神学会（1985年～）、学校伝道研究会（1982～）、日本ビ

ューリタニズム学会（2006年～）

担当科目：アメリカ文化学研究 E（20世紀のアメリカの諸相）春4単位（大学院）、アメリカ文化学 E 演習（『アメリカ史のアイロニー』研究）秋4単位（大学院）、アメリカ・ヨーロッパ文化学総論（オムニバス）2コマ担当（大学院）、キリスト教人間学 B 春2単位（学部）、キリスト教人間学 A 秋2単位（学部）

専門分野：組織神学、キリスト教倫理学、アメリカ神学思想史

研究テーマ：ラインホルド・ニーバーとその思想、20世紀アメリカの神学思想

研究内容：ラインホルド・ニーバーと神学および政治的リベラリズムとの関係に関する研究。それによって、ニーバーの神学・社会・政治思想の特質を明らかにすることを目指す。

研究業績（2008年度〈2008/4～2009/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
学術論文	ラインホルド・ニーバーと ADA	『聖学院大学総合研究所紀要』No.42	第二次大戦後設立された政治団体 Americans for Democratic Action とニーバーの関係とくにその設立とその思想に果たしたニーバーの役割を説明。	2008.8
研究ノート	ニーバーとバターフィールド	聖学院大学総合研究所『ニューズレター』Vol.18-1	冷戦時、歴史家で政治的現実主義者ハーバート・バターフィールドとラインホルド・ニーバーの歴史的・思想的交錯の一端を考察。	2008.7
書評	Gary Dorrien, The Making American Liberal Theology 3 Vols., 2001, 03, 06.	『ピューリタニズム研究』第3号	ゲイリー・ドーリエンによる浩瀚なアメリカ・リベラル神学思想史研究全3巻を評価。とくにニーバーの取り扱いを批判的に検討。	2009.2

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
シンポジウム 発表	ニーバーの神学と政治学の意義——ハワーワスのニーバー批判をめぐって	聖学院大学総合研究所 20周年記念シンポジウム「アメリカとニーバー」	スタンレー・ハワーワスによるニーバー批判の特質とその問題点の検討。	2008.5.30
研究 発表	ラインホルド・ニーバーの教会論	日本基督教学会関東支部会	ニーバーの教会論の概要を整理。ニーバーには教会論が希薄であるとする見方の誤りを指摘。	2009.3.27

たけ ぶち か おり
竹 潤 香 織

現職位：助教

本学への就任：2005年4月1日

最終学歴：

1996年3月 聖学院大学人文学部児童学科卒業

1999年3月 聖学院大学大学院政治経製政策研究科修了

取得学位：

1996年3月 人文学学士（聖学院大学）

1999年3月 政治政策修士（聖学院大学）

所属学会：日本発達心理学会（1998年～）、日本学校心理学会（2000年～）、日本嗜癪行動学会（2003年～）、日本心理臨床学会（2004年～）、日本描画テスト・描画療学会（2005

年～）、日本発達障害学会（2006年～）

担当科目：自由学園非常勤講師 「心理学」担当
人間の健康な発達と疾患や障害、不適応などについて概観。

学生指導：学生相談室にてカウンセリング業務（週3日）、FO・リーダーズキャンプ等で心理教育担当

専門分野：臨床心理学

研究テーマ：青年期発達障害、学生相談

研究内容：青年期の発達障害について、特に支援体制を構築を目指す。離学者分析。学生相談での面談、アセスメント方法について。

研究業績（2008年度〈2008/4～2009/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
学会 発表	大学生の死生観——学生相談の現場から	聖学院大学総合研究所 死生学研究会	死生観尺度による調査とケースの紹介、また生と死の教育の可能性について探る。	2009.1
研究 ノート	学生の居場所としての大学	聖学院大学総合研究所 Newsletter Vol.18-5	対人関係が持てない学生の増加。居場所として、またいざという時に駆け込める場所としての相談室のあり方について。	2009.3

ふじ かけ あきら
藤 掛 明

現職位：准教授

本学への就任：2003年4月1日

最終学歴：1982年3月 大東文化大学文学部

所属学会：日本犯罪心理学会（1982年～、2003年理事～）、日本矯正医学会（1982年～）、日本矯正医学会（1982年～）、日本心理臨床学会（1986年～）、日本描画テスト描画療法学会（1990年～、1990年～評議員（理事）、2004年～常任理事、編集委員）、日本家族研究家族療法学会（1992年～）、東京臨床心理士会運営委員（理事）、同研修委員長、同倫理担当理事（2003年～2006年）、日本臨床死生学会（2005年～）、日本福音主義神学会（2006年～）

担当科目：青年心理学（教養）、青年心理学（児童学科）、キリスト教とカウンセリング1、キリスト教カウンセリング事例研究（福祉学

研究科）、カウンセリング入門・精神医療とカウンセリング、同ライフコースとカウンセリング、発達支援、コラージュ療法（聖学院大学生涯学習センター）

学生指導：修士課程学生への研究指導（補助）

専門分野：臨床心理学

研究テーマ：心理テスト、心理療法、非行カウンセリング、キリスト教カウンセリング

研究内容：雨の中の私画テストの検証、適用に関する研究。

非行をはじめ、依存やハラスメント等行動化型のクライアントに対するカウンセリングの実践と研究。

キリスト教牧師のメンタルヘルスや牧会カウンセリング活動の調査、分析に関わる研究。

研究業績（2008年度〈2008/4～2009/3〉）

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
書籍	牧師のSOSと危機対応	東京基督教大学国際宣教センター	国際宣教センターが主催した牧師研修会の内容をまとめたもの。「牧師のストレスとセクハラ」を担当。	2008.9
連載 評論	映画に学ぶカウンセリング・マインド (上)(中)(下)	「月刊少年育成」6月号～8月号	映画作品をテキストに、「日常生活」「きょうだい関係」「非行・犯罪」について、カウンセリング的な視点から解説。	2008.6～8
連載 評論	「自分の弱さと限界を認めること」を考える(4)	「牧会ジャーナル」第42号、いのちのことば社	中年期の課題と危機を信仰者の観点から論じた。	2008.2
連載 評論	クリスチャン夫妻の葛藤エピソードの臨床的検討(3)	「牧会ジャーナル」第39号、いのちのことば社	聖俗二元の病理の観点から、クリスチャン夫婦カウンセリング事例を考察。	2008.5
評論	牧師の不祥事問題の心理学的側面	「牧会ジャーナル」第40号、いのちのことば社		2008.8
評論	神から一時的に与えられる指導者の役割	クリスチャン新聞2008.4いのちのことば社	牧師の使命感と共感性の二側面について心理について考察。	2008.4

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
評論	「違和感」と「異常な多忙さ」を考える	クリスチャン新聞 2008.10 いのちのことば社	牧師不祥事事件を、周囲が抱く違和感、および異常な多忙さから考察。	2008.10
評論	牧師の性的逸脱不祥事のいくつかのパターン	クリスチャン新聞 2009.2 いのちのことば社	牧師の性的逸脱不祥事を3つのパターンに分けて論じた。	2009.2
評論	「悪」に陥る心理——犯罪カウンセリングの経験から	「信徒の友」2月号、 日本基督教団出版局	主の祈りにみる「悪」の問題について、犯罪心理学的な立場から考察。	2009.2
インタビュー	スペシャリストに聞くカラダとココロの健康バロメーター	「百万人の福音」 10月号、いのちのことば社	臨床心理士自身のメンタルヘルスについて応答。	2008.10
書評	新版 サンタクロースの謎（賀来周一著）	「本のひろば」12月号、 キリスト教文書センター		2008.12
書評	闇を住処とする私・やみを隠れ家とする神	「リバイバル・ジャパン」 1月1日号、リバイバル新聞社		2009.1
書評	自ら逝ったあなた・遺されたわたし	「ファミリー・フォーラム」 春号、ファミリー・フォーラム・ジャパン		2009.3
学会講師	非行と家族の描画	日本描画テスト描画療法学会第18回大会ワークショップ（於、東京大学）	家族画テストの臨床について、非行事例を基に講義。	2008.9
学会座長	基礎・調査研究	日本心理臨床学会第27回大会基礎・調査研究B3（於、つくば国際会議場）		2008.9
学会講演	困難な教会への提言	福音主義神学会（東部部会）公開講演会	「背伸び・強行突破論」を、日本人伝道論、信徒教育論として展開。	2008.9

ふじ わら あつ よし
藤原淳賀

現職位：准教授

本学への就任：2004年4月1日

最終学歴：

1989年3月 慶應義塾大学大学院

1994年5月 Golden Gate Baptist Theological Seminary

1999年7月 University of Durham

取得学位：

1989年3月 教育学修士（慶應義塾大学）

1994年5月 Master of Divinity（Golden Gate Baptist Theological Seminary）

1999年7月 Doctor of Philosophy（University of Durham）

所属学会：American Academy of Religion（1996年～）、日本基督教学会（2001年～）、日本福音主義神学会（2004年～）、日本宗教学会（2005年～）、日本宣教学会（2005年～）、

Society of Christian Ethics（2006年～）、Society for Study of Christian Ethics（2008年～）

担当科目：キリスト教概論A、キリスト教概論B、キリスト教信仰と文化、キリスト教と物語

専門分野：キリスト教組織神学、キリスト教社会倫理学

研究テーマ：文化の神学、教会論

研究内容：キリスト教信仰の社会的関わりを大きな意味での研究課題としている。
現在は、キリスト教の独自性と、広く非キリスト教世界にも適用可能なキリスト教倫理（人権、民主主義、平和の維持）とを結ぶ理論的土台をキリスト論のうちに見出すことを課題としている。

研究業績（2008年度〈2008/4～2009/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
学会発表	「スタンリー・ハワースによるラインホルド・ニーバーの評価の検討：キリスト者は何に召されているのか？」	聖学院大学総合研究所シンポジウム「アメリカとニーバー」		2008.5.30
学会発表	「なぜ日本に教会が必要なのか」	聖学院大学総合研究所組織神学研究センター連続講座「なぜ日本に神学が必要なのか」		2008.7.29
翻訳	アリストター・マクグラス教授講演「聖餐：その歴史と実践」の邦訳	キリスト新聞社・聖学院大学総合研究所共催特別講演会（青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂）		2008.10.12

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
学会発表	「『キリスト教信仰の独自性』と『全ての人に適応可能なキリスト教』との間の暫定的試みとしてのリベラル・デモクラシー」	聖学院大学総合研究所創立20周年記念国際シンポジウム「戦後リベラル・デモクラシーの伝統の再検討」、pp.40-42		2008.10.13
翻訳	“Doctrine of the Trinity and the Modernity” by Prof. T. Fukai (Translated with Mr. B. Byrd)	深井智朗教授講演「三位一体論と現代」の英訳、「聖学院大学総合研究所創立20周年記念学術セミナー：三位一体の神：一神教批判と多元主義を超えて」		2008.10.15
評論	「三位一体の神」	『クリスチャン新聞』2008.11.2号、p.5		2008.11.2
学会発表	「『欧米の神学とアジアの神学』への応答：アジアの神学(a theology of Asia)のために」	長老会神学大学(韓国ソウル)『第一回韓日神学者学術会議：欧米神学とアジア神学』pp.80-85		2009.3.10
評論	「キリストの苦難への参与」	長老会神学大学チャペル説教『第一回韓日神学者学術会議：欧米神学とアジア神学』pp.86-89		2009.3.10
著書	「ダビデ：神への畏れと信頼」	『愛に生きた証人たち：聖書に学ぶ』金子晴勇、平山正実編、聖学院大学出版会、pp.85-114		2009.3.25
評論	「文化の神学30『物語神学四』」	『形成』No. 447、pp.14-15		2008.4
評論	「文化の神学31『物語神学五：相対性の問題と告白的神学』」	『形成』No. 448、pp.14-15		2008.5
評論	「文化の神学32『人格倫理』」	『形成』No. 449、pp.14-15		2008.6

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
評論	「文化の神学 33『ハワーワスの思想的背景』」	『形成』No.450、pp.14-15		2008.7
評論	「文化の神学 34『人格、徳、諸徳について』」	『形成』No.451-2、pp.14-15		2008.8
評論	「文化の神学 35『教会論一』」	『形成』No.453、pp.14-15		2008.10
評論	「文化の神学 36『教会論二』」	『形成』No.454、pp.14-15		2008.11
評論	「文化の神学 37『教会論三』」	『形成』No.455、pp.14-15		2008.12
評論	「文化の神学 38『教会論四：教会の具体性』」	『形成』No.456-7、pp.14-15		2009.1
評論	「文化の神学 39『教会論五：教会の具体性二』」	『形成』No.458、pp.14-15		2009.3
論文	Professor Hideo Ohki and the Project of a "Theology of Japan"	A Theology of Japan, Vol.4, pp.32-65 Seigakuin University Press		2009.3.30
その他	Foreword	A Theology of Japan, Vol.4, pp.7-9 Seigakuin University Press		2009.3.30

ふじ わら ま ち こ
藤 原 真 知 子

現職位：特任講師

本学への就任：2003年4月1日

最終学歴：

1976年5月 Ottawa University (アメリカ)

取得学位：

1976年5月 B.A (Ottawa University)

専攻：小学校における第二外国語としての英語教授法

所属学会：JACET 全国大学英語学会 (2003年

～)、JALT 全国語学教育学会 (2003年～)、JASTEC 日本児童英語教育学会 (2003年～)、東京私立初等学校協会外国語部会 (2005年～)

担当科目：聖学院小学校・英語、聖学院幼稚園・英語、聖学院大学生涯学習センター・児童英語

学生指導：入学前教育

専門分野：早期英語教育

研究テーマ：早期英語教育全般、児童英語教師養

成、小学校教員英語研修、児童英語教材開発
研究内容：文字指導に焦点を当てた低学年英語教授法。クロスカルチャーを取り入れた児童英語教授法。公立小学校における英語教育と小学校教員のための英語研修。幼・小・中連携

の英語教育。コンテンツベースによる小学校英語教育。

研究業績（2008年度〈2008/4～2009/3〉）
 下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F	第8回児童英語教師養成講座	聖学院大学	低学年に焦点を当てた英語の文字指導の実践例とその効果	2008.7
F	世田谷区用賀地区小学校教員英語研修	東京都教育委員会	小学校教員英語運用能力向上のための英語研修	2008.7
F	平成20年度小学校英語リーダー研修	横浜市教育委員会	小学校教員英語運用能力向上のための校内研修の進め方（中核教員対象）	2008.7
F	平成20年度小学校英語リーダー研修	横浜市教育委員会	英語クラスの指導案作成法（中核教員対象）	2008.8
F	小学校英語教育の実践例	上尾市教育研究会 外国語部会	中学校英語との連携を視野に入れた小学校英語教育実践例とこれからの中学校英語教育	2008.8
F	Introducing Japan Hands-on	The 34th JALT International Conference on Language Teaching and Learning	児童が簡単な英語を使って日本文化を外国の人に紹介する指導法とその効果：昔話と茶道	2008.10
F	小学校英語教授法	上尾市教育研究会 外国語部会 授業研究会	小学校での英語の絵本の導入法と小・中連携の英語教育	2008.10
F	子どもの英語力を最大に伸ばす「目から鱗」の指導法	国際教育振興協会 英語教育推進委員会	英語耳の育て方と児童が積極的に発話するクロスカルチャーを取り入れたアクティビティの紹介	2008.11
F	プロ英語教師育成ウェブキャンパス	国際教育振興協会 英語教育推進委員会	小学生に英語を指導する上での課題に対するソリューション	2008.12
F	小・中連携の英語教育	世田谷用賀地区 小・中教育研修会	小・中連携の英語教育をどのように進めることができるかについての助言	2009.2
Ba	<i>Kamishibai and Karuta in Elementary school English Program</i>	JALT 全国語学学会 The proceedings of JALT 2008	芝居やカルタの手法により日本の昔話を小学校の英語の授業に取り入れた実践例の紹介と児童にとって日本の文化・習慣を英語で分かち合うことについての意味を考える（共著）	2009.3

もり た み ち よ
森 田 美 千 代

現職位：准教授

本学への就任：2000年4月1日

最終学歴：

1999年10月 ドルー大学大学院博士課程アメリカの宗教と文化専攻修了

取得学位：

1972年3月 教育学修士（国際基督教大学）

1990年5月 神学修士 Master of Theological Studies（ドルー大学）

1998年5月 哲学修士 Master of Philosophy（ドルー大学）

1999年10月 Ph.D.（ドルー大学）

所属学会：American Academy of Religion（1997年～）、アメリカ学会（2000年～）、日本キリスト教教育学会（2000年～）、初期アメリカ学会（2001年～）

担当科目：アメリカ文化学研究 F（大学院、マーティン・ルーサー・キング研究）、アメリカ文化特殊研究（大学院、博士論文指導）、研究方法特論 I・II（大学院、研究の基本

である「書く力」の指導）、キリスト教とアメリカ文化 A・B（学部、ハリエット・ビーチャー・ストウ研究）、キリスト教教育論 A（学部、主としてホーレス・ブッシュネルのキリスト教教育論）

学生指導：大学院生の研究上の問題を、時間をかけて個人指導した。

専門分野：アメリカのキリスト教と文化

研究テーマ：マーティン・ルーサー・キング研究、ハリエット・ビーチャー・ストウ研究、ホーレス・ブッシュネル研究

研究内容：キングに関しては、彼のリーダーシップの源泉について研究を進めている。ストウに関しては、登場人物のオーガスティン・セント・クレアに焦点を当てて読むと、これまでになされてきたものとは違った研究ができるのではないかという仮説のもとに、研究を進めている。ブッシュネルに関しては、主として女性論と教育論の研究を進めている。

研究業績（2008年度〈2008/4～2009/3〉）

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
研究会発表	「なぜ日本にキリスト教教育が必要なのか」(単)	組織神学研究センター研究会		2008.11.25
コメント	『『象徴天皇制と日本の将来の選択——キリスト教的観点から』に対するコメント』(単)	聖学院大学総合研究所 20周年記念国際シンポジウム		2008.10.13
その他	『『象徴天皇制と日本の将来の選択——キリスト教的観点から』に対するコメント』(単)	『聖学院大学総合研究所紀要』No.44 別冊		2009.3

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
その他	“Comment on 'The Emperor-as- a-symbol System and the Future Choice of Japan- From a Christian Perspective'”	<i>A Theology of Japan</i> , pp.72-74, vol.5 Seigakuin University Press		2009.3.30

ディーン ウォレン サザデン

Dean Warren Sotherden

現職位：准教授

本大学への就任：1997年4月

最終学歴：

1982年6月 Ohio University

1983年7月 U.S. Defense Language Institute

1983年12月 U.S. Military Intelligence School

1997年5月 Temple University

取得学位：

1982年6月 B.A. (Cum Laude) Anthropology
(Ohio University)

1997年5月 M.Ed. TESOL
(Temple University)

担当科目：English/ Seigakuin Junior and Senior
High School

学生指導：I am conducting TOEIC training
through TOEIC Taisaku Zemi and classes.
I am teaching English in various classes,
including the Special English Class.

専門分野：EFL Education and the TOEIC

研究テーマ：TOEIC preparation and Second
Language Acquisition

研究内容：I am researching the ways that
students can raise their TOEIC scores and
communicate fluently in English.